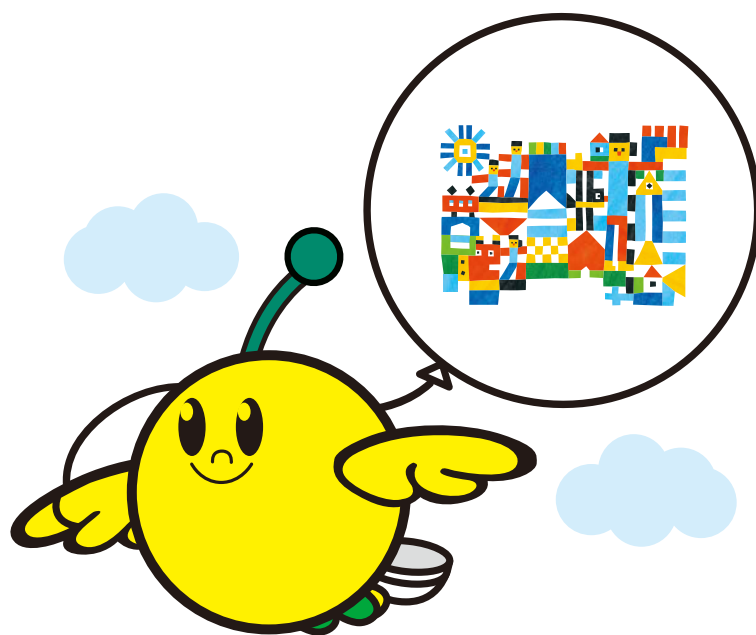


福島県東日本大震災子ども支援基金

事業報告書



福島県復興シンボルキャラクター
キビタン

福島県
〔令和6年度版〕

ご あ い さ つ



平成23年3月の東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所事故から13年余が経過しました。

この間、国内外の多くの皆様から様々な御支援をいただいていることに対し、心から感謝申し上げます。

震災と原発事故からの復興に取り組む福島県では、「創造的復興の中核拠点」となる福島国際研究教育機構(F-REI)が始動したほか、県産品の輸出額が過去最高を記録し、県内への移住者数や新規就農者数も過去最多を更新するなど、これまで続けてきた挑戦の成果が形となって現れてきております。一方で、今もなお多くの方々が避難生活を続けている現実があります。そうした方々の生活再建に加え、減少した人口の回復、生業や産業の再生、そして長期間にわたる廃炉の取組など、本県はいまだ多くの復興に向けた困難な課題を抱えております。

こうした中、被災した子どもたちを長期的、継続的に支援するため、国内外の皆様からお寄せいただいた「東日本大震災ふくしまこども寄附金」を活用し、保護者が死亡したり行方不明となった児童（遺児・孤児）に対する支援に加えて、本県の子どもたちが、様々な困難を乗り越え、心身ともに健やかに育つための施策に活用させていただいております。

本県に心を寄せてくださる全ての方々と力を合わせて、ふくしまの明るい未来を切り拓いてまいりますので、今後とも御理解と御支援をお願いいたします。

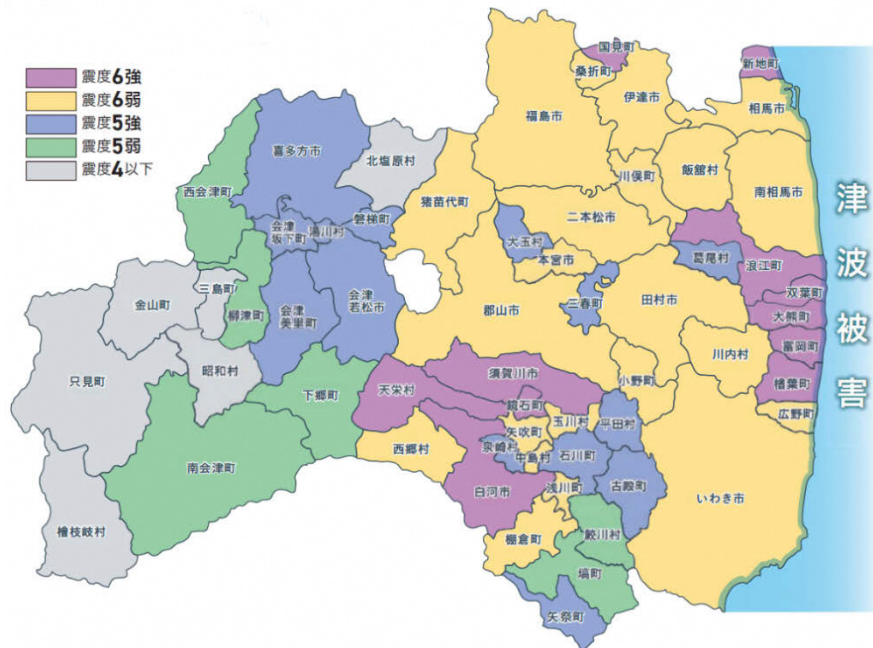
令和6年9月

福島県知事 内堀 雅雄

福島県の発災当時の被害状況と現在

平成23年3月11日14:46に三陸沖を震源として発生した「平成23年 東北地方太平洋沖地震」(東日本大震災)は、マグニチュード9.0を記録し、観測史上最大の地震でした。

福島県では最大震度6強を記録し、激しい揺れとともに、広い範囲で大津波が押し寄せました。東京電力福島第一原子力発電所でも事故が発生し、未曾有の複合災害となりました。



地震や津波等により多くの尊い命が失われ、10万棟近くの住家が全半壊しました。また、原子力災害の影響で県土の1割を超える区域に避難指示等が発出され、多くの県民がふるさとを離れての生活を余儀なくされました。

震災から13年余が経過した今、公共土木施設の復旧や避難指示の解除が進むなど、本県の復興は着実に進展しています。一方で、いまだに約2万6千人の方々が避難生活を続けておられるほか、被災者の生活再建、根強く残る風評と風化の問題など、多くの課題を抱えています。



復旧・復興事業の様子
(大熊町大川原地区)





出典：NEDO

「東日本大震災ふくしまこども寄附金」について

東日本大震災では、多くの子どもたちが親を失いました。加えて、原子力災害により、住み慣れた土地から長期間離れなければならない子どもたちも多く、様々な喪失体験によって、心に大きな負担がかかっています。

こうした中、福島県では、平成23年8月から東日本大震災による震災孤児等への支援のための寄附口座「東日本大震災ふくしまこども寄附金」を開設しています。

これまで、国内外の皆様からあたたかいご寄附をお寄せいただき、多くの子どもたちが夢に向かってはばたくことができました。これからも、子どもたちが震災前に抱いていたそれぞれの夢をあきらめることなく、着実に前に進んでいくことができるよう、大切に有効に活用させていただきたいと考えています。

○ **寄附の状況（令和6年3月31日現在）**

寄附総件数 21,386件 寄附総額 7,483,877,071円

○ **被災孤児、遺児（令和6年3月31日現在）**

- ・ 孤児：24人（孤児：両親若しくは単親の場合、現に養育していた親が死亡又は行方不明となった児童）
- ・ 遺児：180人（遺児：両親のうちいずれかが死亡又は行方不明となった児童）

「東日本大震災ふくしまこども寄附金」を活用した事業について

1 福島県東日本大震災子ども支援基金給付金

福島県東日本大震災子ども支援基金条例を制定し、東日本大震災ふくしまこども寄附金を基金に積み立て、東日本大震災により、保護者が死亡又は行方不明となった児童（孤児・遺児）に対して、生活及び修学を支援するための給付金を給付する事業を実施しています。

1 対象者 東日本大震災により保護者が死亡し又は行方不明となった児童

2 給付期間 大学等卒業までの期間

3 給付金の種類及び金額

(1) 月額金

ア 未就学児童	月額（孤児：30,000円、遺児：20,000円）
イ 小・中学校に在籍する者	月額（孤児：40,000円、遺児：30,000円）
ウ 高等学校等に在籍する者	月額（孤児：50,000円、遺児：40,000円）
エ 大学及び専門学校等に在籍する者	月額（孤児：60,000円、遺児：50,000円）

(2) 一時金

ア 小学校入学時給付金	30,000円
イ 小学校卒業時給付金	50,000円
ウ 中学校卒業時給付金	100,000円
エ 高等学校卒業時給付金	300,000円

4 給付実績（令和6年3月31日現在）

給付実人員 199人 総給付額 788,590,000円

次ページ以降で
給付金受給者から寄附をくださった皆様への
メッセージを紹介します。



ふくしまを応援する『ペコ太郎』

寄附をくださった皆様へのメッセージ

○「福島県東日本大震災子ども支援基金給付金」をお届けしている児童・生徒や保護者の方々から、寄附をくださった方へ寄せられたメッセージをご紹介します。

◆寄附をくださった方へのメッセージ◆
寄附をくださった方へ伝えたいことを自由に書いてください。
(いただいた内容は県ホームページなどへのせることがあります。)

長年にわたりご支援を
いただき、ありがとうございます。
子どもは中学生になり、リリック
社会を見る目が育ってきて、
将来のことを考える時期になりました。
多くのことを経験して、日々の成長を
見守ってほしいと思っています。

学校 小学校・中学校・高校・その他保護者)
学年 〃年生 ※お名前を書く必要はありません。

◆寄附をくださった方へのメッセージ◆
寄附をくださった方へ伝えたいことを自由に書いてください。
(いただいた内容は県ホームページなどへのせることがあります。)

いつもたくさんのご支援ありがとうございます
ごむいまる♡
私は高校1年生になりました。
中学生の時とは違い色々な方面から
将来をきちんと考え通っている人達
におどろいています。私ははっきりと
将来が決まっています。でも私が
助けもらった分、今度は私が助ける
頂け!! 何か出来るかわかりません
か小さな事から始め様と思います。
感謝 あやだ♡

学校 小学校・中学校・高校・その他()
学年 1年生 ※お名前を書く必要はありません。

◆寄附をくださった方へのメッセージ◆
寄附をくださった方へ伝えたいことを自由に書いてください。
(いただいた内容は県ホームページなどへのせることがあります。)

支援
ありがとうございます



学校 小学校・中学校・高校・その他()
学年 2年生 ※お名前を書く必要はありません。

◆寄附をくださった方へのメッセージ◆
寄附をくださった方へ伝えたいことを自由に書いてください。
(いただいた内容は県ホームページなどへのせることがあります。)

寄附をくださり、ありがとうございます。
自分の志望する大学に合格
できるよう、日々勉強を頑張
ります。また、勉強だけでなく、
残りの高校生活を存分に
楽しみたいと思っています。

学校 小学校・中学校・高校・その他()
学年 3年生 ※お名前を書く必要はありません。

寄附をくださった皆様へのメッセージ

◆寄附をくださった方へのメッセージ◆

寄附をくださった方へ伝えたいことを自由に書いてください。
(いただいた内容は県ホームページなどへのせることがあります。)

こども未来さんはじめ、たくさんの人に
支えられ大学生生活を送っています。
将来、誰れかを支える人になりたいと思い
医療福祉大学に通っています。
専門知識の勉強は、少し難しいですが
自分の夢が実現できるように勉強に
励んでいきたいと思っています。
いつもありがとうございます。

学校 小学校・中学校・高校・その他(大学)
学年 2年生 ※お名前を書く必要はありません。

◆寄附をくださった方へのメッセージ◆

寄附をくださった方へ伝えたいことを自由に書いてください。
(いただいた内容は県ホームページなどへのせることがあります。)

いつも私たちの生活を支援していただき
ありがとうございます。おかげで大学に進学
することができ、楽しい学生生活を送って
います。大学は今までの学校生活の中で
一番楽しく、興味のあることと専門的に
学んでいます。今は教員免許取得のため
週6で通っていて毎日忙しいですが、とても
充実した生活を送っています。

皆様これから夏本番がやりますので
体調に気をつけてお過ごし下さい。

学校 小学校・中学校・高校・その他(大学)
学年 2年生 ※お名前を書く必要はありません。

◆寄附をくださった方へのメッセージ◆

寄附をくださった方へ伝えたいことを自由に書いてください。
(いただいた内容は県ホームページなどへのせることがあります。)

いつもご支援くださりありがとうございます
ごぞいます。現在、私は短期大学に
通っており、最終学年です。就職先も
決まり、残りの学生生活を楽しく過ご
しています。最近では、大学で学業成
績優秀者に選ばれ、とてもうれしい気
持ちでいっぱいです。このような貴重
な経験ができてるのは、支援して
くださる皆様がいっぱいいるからです。
改めてありがとうございます。

学校 小学校・中学校・高校・その他(短期大学)
学年 2年生 ※お名前を書く必要はありません。

◆寄附をくださった方へのメッセージ◆

寄附をくださった方へ伝えたいことを自由に書いてください。
(いただいた内容は県ホームページなどへのせることがあります。)

御支援者様へ

昨日の日のけいりかに気温30℃超え
の日々が続く体調管理に気を付ける
毎日です。

三年生になりいよいよ就職活動も始ま
ります。諸々の資格取得にも力を入れ
たいです。最近では、記念日には、プレゼント等
をくれる様になり成長が何えです
今更、沢山の皆様からの御支援に感謝を
忘れず、一人前の大人に成長してゆくのを願っています。

益々、暑さも厳しくなる中、皆様と体を
御愛護下さい 相川 あり

学校 小学校・中学校・高校・その他(大学)
学年 3年生 ※お名前を書く必要はありません。

寄附をくださった皆様へのメッセージ

◆寄附をくださった方へのメッセージ◆
 寄附をくださった方へ伝えたいことを自由に書いてください。
 (いただいた内容は県ホームページなどへのせることがあります。)

息子は、
 今年3月に、大学を卒業し、
 4月より会社員になりました。
 まだ研修が済んだばかり
 で、学ぶことが多い息子で
 すが、頑張っているようです。
 13年間、支えていただいたこと
 に、感謝の一言では済まな
 い程、有り難く思っております。

学校 小学校・中学校・高校・その他(母)
 学年 _____ 年生 ※お名前を書く必要はありません。

◆寄附をくださった方へのメッセージ◆
 寄附をくださった方へ伝えたいことを自由に書いてください。
 (いただいた内容は県ホームページなどへのせることがあります。)

お世話になっております。
 皆さまの温かいご支援のおかげで
 学生生活を送ることができました。
 (安心して)

4月より、社会人となり、大変な
 部分もあるようですが、頑張っ
 ているようです。

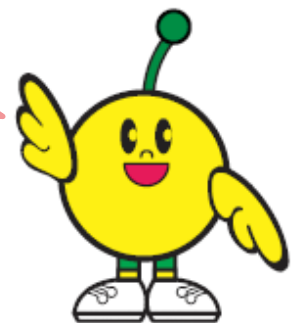
今も支えていただきまして、
 本当にありがとうございます。
 (保護者)

学校 小学校・中学校・高校・その他()
 学年 _____ 年生 ※お名前を書く必要はありません。

2 「ふくしまこども寄附金」による支援について

福島県では、子どもたちの「心身の健やかな成長」、「学力、運動能力、情報発信能力や表現力等様々な能力育成」及び「ふるさと福島への愛着心醸成」など、県内の子どもたちの将来の夢や希望の実現を支援する事業に、「ふくしまこども寄附金」を活用しています。

次ページ以降で
 支援事業の一部を紹介します。





海外サッカークラブと連携した子どもの夢応援事業

1 事業概要

国内最高レベルの天然芝ピッチを有し、復興のシンボルとして再開を果たしたJヴィレッジにおいて、海外サッカークラブと連携して次の2つの事業を行いました。

① ベルギープロリーグ所属の日本人選手を講師にした小学生向けサッカー教室
講師

○岡崎 慎司選手 ○橋岡 大樹選手

○林 大地選手 ○原 大智選手

② ベルギープロリーグの育成スタッフによる中学生を対象としたイベント

2 事業実施による効果

海外で活躍するプロサッカー選手やトップレベルのコーチと直接関わり、指導を受けることによって、参加した子どもたちの夢の実現や心身の成長につながる機会となりました。



3 参加者の声

○海外につながる体験をしたことで、より一層目標を高く持とうと思った。

○自分に足りないところが分かり、サッカーの技術を上げようと思うきっかけとなった。

4 お問い合わせ先

企画調整部 エネルギー課（TEL：024-521-7116）

東日本大震災・原子力災害伝承館学習活動支援事業

1 事業概要

震災と原発事故の記録や教訓を地域や世代を超えて継承する施設として令和2年9月に開館した東日本大震災・原子力災害伝承館を学習活動に活用するため、県内外の小中学校及び高等学校の児童・生徒が学習活動で訪問する際の費用の補助等を行いました。



2 利用学校数

289校（16,824名）

3 お問い合わせ先

福島県文化スポーツ局 生涯学習課（TEL：024-521-7404）



輝け未来へ！スマイルスポーツ教室 in ふくしま

1 事業概要

福島市出身のエアレースパイロット「室屋 義秀」氏をはじめとした様々な講師を招き、親子一緒にスポーツを楽しみながら、トップアスリートの技能を見たり、経験談を聞いたりできる教室を開催しました。

2 事業実施時期及び参加者数

スカイスports教室：令和5年5月21日（日） 参加者数161人

ブレイクダンス教室：令和5年7月16日（日） 参加者数47人

アーチェリー教室：令和5年10月22日（日） 参加者数54人

アイススケート教室：令和5年11月26日（日） 参加者数30名

3 事業実施による効果

国内外で活躍する講師との触れ合いを通して、スポーツの楽しさを体感させるとともに、子どもたち自身の将来の自分づくりに向けた夢や希望を育むことができました。

4 参加者の声

- 楽しくてあっという間の時間だった。月1回ぐらい実施してほしい。
- 初めて本格的な体験ができ、大変充実した。
- 普段体験できないスポーツ体験ができ良い機会を得た。
- なかなかやる機会がない競技で、対象の競技を初めて見た。競技を知れて良かった。

5 お問い合わせ先

福島県文化スポーツ局 スポーツ課（TEL：024-521-7995）



【室屋氏による「スカイスports」教室】



【パリ五輪新種目「ブレイクダンス」教室】



ジャーナリストスクール開催事業

1 事業概要

未来を担う子どもたちが、ふるさと「ふくしま」において、復旧・復興に取り組んでいる個人や団体に対して取材し、新聞としてまとめ、発信することにより、自分たちの住む「ふくしま」の良さを知るとともに、将来の夢や希望を深く考える機会を設けました。

2 事業実施時期及び参加者数

実施時期：令和5年8月3日（木）、5日（土）、6日（日）、8月12日（土）

参加者数：小学生25名、中学生11名、高校生2名、

OB・OG8名、新聞発表会参観者 保護者124名

3 事業実施による効果

子どもたちに、復興に取り組む被災者等と直接的に関わる機会を提供し、自ら学び、考え、自分の言葉で発信する体験をすることで、改めて震災と向き合い、復興に向かって踏みだそうとする自主性を支援することができました。



4 参加者の声

○ジャーナリストスクールを通して、仲間とも思い出をつくることができました。

また参加したいです。「池上 彰」先生の話にもとても感動しました。

5 お問い合わせ先

福島県文化スポーツ局 生涯学習課（TEL：024-521-7404）

個別支援教育サポート事業

1 事業概要

個別支援教育コーディネーターを配置している県立高校9校に、放課後に活動できる居場所を校内に設置しました。生徒の悩み相談や学習、交流ができる居場所を設けました。

2 事業実施による効果

学校、家庭に続く第3の居場所として、生徒が安心して過ごすことのできる居場所が校内にできることで、落ち着いて学習ができたり、友人と一緒に過ごしたりすることができました。また、自分の話を聞いてくれる、先生や家族とは異なる「大人」と安心して接することができる場所があることで、自己理解を進めることができたり、他者とのコミュニケーションの幅を広げたり、進路について相談したりすることができました。

3 お問い合わせ先

福島県教育庁 高校教育課（TEL：024-521-7772）



ふくしまの未来をひらく読書の力 プロジェクト

1 事業概要

中高校生を対象にしたビブリオバトル（お勧めの本を紹介しあう書評合戦）福島県大会を通して、広く県民に対し子どもの読書活動についての理解の促進のための普及活動・啓発活動を実施しました。

2 事業実施時期及び参加者数

会津地区予選会	令和5年	9月	2日（土）	高校生8名、観戦者83名
中通り地区予選会	令和5年	9月	3日（日）	高校生17名、観戦者80名
浜通り地区予選会	令和5年	9月30日（土）	高校生17名、観戦者109名	
県大会	令和5年	11月25日（土）	中学生15名、高校生5名 観戦者202名	

3 事業実施による効果

ビブリオバトルを通じて中高校生の読書活動への関心が高まっただけでなく、情報発信能力の育成・向上が図られました。

4 参加者の声

○読書の機会が減っていたので、今回たくさんの本に出会うことができ、とても嬉しかったです。これまで「ビブリオバトル」には高いハードルを持っていたのですが、とても楽しく充実した一日を過ごすことができました！ 次回も参加したいです。

○本の内容だけでなく、話し方や身振り手振りも工夫されていて5分間のプレゼンがあったという間に感じるほどおもしろいものばかりでした。読んでみたい本も見つかりました。本の楽しさを改めて感じさせられた大会でした。

5 お問い合わせ先

福島県教育庁 社会教育課（TEL：024-521-7799）





アートで広げる子どもの未来プロジェクト

1 事業概要

福島の未来を担う子どもたちに将来「新生ふくしま」を推進する人材として活躍してもらうため、県内の小中学校等に、県内外で活躍するアーティストを講師に招き、多彩なアートプログラムを体験できるワークショップを開催しました。



2 事業実施回数及び総参加者数

実施回数：計42回 総参加者数：704名

3 事業実施による効果

美術作家を講師として招き、交流しながら一緒に制作を楽しむことで、いつもとは違う「つくる喜び」を体験し、子どもたちの創造性を育むことができました。

4 お問い合わせ先

福島県文化スポーツ局 文化振興課 (TEL: 024-521-7154)

JFA と連携した人材育成事業

1 事業概要

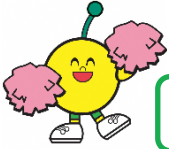
福島県立ふたば未来学園高等学校サッカー部へ指導者を派遣し指導にあたることで、JFA アカデミー卒校生を始めとする、県内の有望選手の受け皿を創出し、ユース年代の育成環境の整備を行いました。

また、県内の子どもたちの健康増進やけが防止の取組を行うとともに、県内外のチームや学校、選手や指導者とサッカーを通じて交流を深めることで、県内の子どもたちの健全育成と広い視野を持った人材の育成を図りました。



2 お問い合わせ先

福島県企画調整部 地域振興課 (TEL: 024-521-7102)



“医療の仕事” 魅力発信事業

1 事業概要

小学生から高校生を対象に、実際に医療の現場で働く看護職による授業や、一日看護等体験、オンライン医療教室を開催することで、医療職の魅力を伝える機会を創出しました。

2 総参加者数

対面授業 1, 251名（小学生181名、中学生597名、高校生473名）

一日看護等体験 476名（高校生）

オンライン教室 35名（小・中学生）

3 事業実施による効果

看護職が講師として児童・生徒に授業を行うことで、生命や性に関すること、キャリア形成、看護の仕事等への理解を促すことができました。



4 お問い合わせ先

福島県保健福祉部 医療人材対策室（TEL：024-521-7222）

理数コンテスト事業

1 事業概要

イノベーション・コースト構想等の大規模プロジェクトを担うトップリーダー（理数系の人材）を育成するため、次の4つの事業を実施しました。

- ① 福島県算数・数学ジュニアオリンピック（算数・数学コンテスト）
- ② 科学の甲子園ジュニア福島県大会（理科コンテスト）
- ③ 未来を担うトップリーダー！先端技術体験 ④ 「科学の甲子園」福島県大会

2 事業実施時期

- ① 令和5年10月22日（日） ② 令和5年 8月 9日（水）
- ③ 令和5年12月26日（火） ④ 令和5年11月12日（日）

3 事業実施による効果

コンテストや大会を通じて、児童生徒の理数系科目への興味や関心を高めるとともに、課題解決に向かうことの大切さや困難を乗り越える達成感等を味わうことができました。

また、先端技術体験をとおして、東日本大震災について理解を深め、福島県のために役に立ちたいという意識を高めつつ、トップリーダーとしての意識を育むことができました。

4 お問い合わせ先

福島県教育庁 義務教育課（TEL：024-521-7774）
 高校教育課（TEL：024-521-7772）



元気なふくしまっ子食環境整備事業

1 事業概要

小中学生を対象に地元の農水産物を活用した料理コンテストを開催しました。入賞したレシピについては広く県民に発信し、子どもたちの料理への関心を高めるとともに、地元の食材に対する理解を深めました。

2 料理コンテストの応募点数及び親子料理教室参加者数

応募点数：18,911点 参加者数：21名（8組）

3 事業実施による効果

食事作りを通して、料理への関心を高め、日本食や地域の風土を理解し、ふるさとへの郷土心を育むことができました。

また、入賞作品のレシピを掲載したチラシを県内のスーパーの店頭や地場産物販売コーナー等に設置し、県民に広く情報を発信することで、望ましい食習慣の形成の一助となりました。

4 お問い合わせ先

福島県教育庁 健康教育課（TEL：024-521-8409）

夢に向かってテクノチャレンジ事業

1 事業概要

震災から立ち上がり、自信と向上心をもって生きることができる生徒の育成を目指し、特別支援学校高等部で取り組んでいる進路に関する学習について、すべての特別支援学校の生徒が一堂に会して学習の成果を発表し、外部専門家からの客観的な評価を受ける機会を設けて、生徒の自立と社会参加につながる知識や技術の向上を図りました。

2 総参加者数

県内特別支援学校高等部生徒 186名

3 事業実施による効果

外部の専門家から評価を受けることで、進路実現に向けての自信につながりました。また、実際に来場した企業等の障がい者雇用への理解が深まり、生徒の卒業生に占める就職率の向上につながるなど、地域で自信をもって働く生徒が増えてきました。



4 お問い合わせ先

福島県教育庁 特別支援教育課（TEL：024-521-7780）



こどもを守る情報モラル向上支援事業

1 事業概要

こどものインターネット利用に関する基礎知識の習得度合いや利用状況を把握し、その向上と改善を図る支援システム「ふくしま情報モラル診断」を運用し、青少年のメディアリテラシーの向上を図りました。

2 実施学校数

387校（児童生徒62,701人、保護者40,067人）

3 事業実施による効果

児童生徒の1人1台端末等を活用して「ふくしま情報モラル診断」を実施し、インターネットに関する正しい知識や安心して適切に使う方法を学び、ICTを活用して問題解決できる能力の向上に繋げることができました。

4 お問い合わせ先

福島県こども未来局 こども・青少年政策課（TEL：024-521-7187）

海外研修への助成

1 事業概要

喜多方高校において、オーストラリア連邦クイーンズランド州ケアンズ市でのホームステイや英語の語学研修を実施し、国際交流に関する理解を深めるとともに、地域の魅力を発信する活動を行いました。

2 参加者数

海外研修：16名

3 事業実施による効果

オーストラリアの生活や習慣、文化等への理解を深めるとともに、現地の高校生やホストファミリーとの交流を通じて自己の在り方に思いを巡らせることができました。また、英語に対する学習意識の向上だけでなく、異文化理解や地域理解に対する重要性を再認識し、喜多方地域に対する愛着心の醸成にもつながりました。

4 お問い合わせ先

福島県教育庁 県立高校改革室（TEL：024-521-7843）





未来に進もう！こどもの夢応援事業

1 事業概要

児童養護施設等を退所し、進学する児童について、生活を支援する生活給付金、進学・新生活準備のための入学支度金、住居契約の更新等の臨時支出費用のための臨時給付金を給付することで、経済面の安定を図り、自立のための支援を行いました。

2 給付実績

生活給付金 17名

入学支度金 5名

臨時給付金 3名

3 事業実施による効果

保護者等からの経済的支援が見込まれない施設退所等児童に対して給付金を支給することで、進学に対するためらいを除き、施設退所等児童が希望する進路を選択することができる環境が整備されました。

4 お問い合わせ先

福島県子ども未来局 児童家庭課（TEL：024-521-8665）

○「未来に進もう！こどもの夢応援事業」で給付金をお届けしている生徒の方々から、寄附をくださった方へ寄せられたメッセージをご紹介します。

寄附をくださった皆様へのメッセージ

私は小さい頃から将来は動物にかかわる仕事をしたいと思っていました。

高校3年の進路を決めようとしているときには動物看護師になりたいという目標ができ、ペットの専門学校の学費などを調べました。しかし、たくさんのお金が必要だとわかりペットの専門学校を諦め、他の学費の安い専門学校への進学に変えましたが、どうしても諦めることができませんでした。

そんな時、施設の先生に相談すると「未来に進もう！こどもの夢応援事業」という制度があり、それを活用するとペットの専門学校にも進学できることを知りました。

担任の先生も学費のことを心配していたので、この制度の話をするとうれしくくれました。ペット専門学校へは無事に合格し、今は動物看護師になるために勉強をがんばっています。

本当にありがとうございました。

寄附をくださった皆様へのメッセージ

高校時代から農業への興味関心が湧き、もっと深く勉強をしたいと考え、農業短大へ進学したいと考えていました。

私の施設の先輩2名もこの応援事業のおかげで、卒業する事ができたと聞いていました。私もこの応援事業への申し込みをして、認めて頂き、農業短大に進学する事ができました。

今は、野菜の勉強を一生懸命しています。将来は、野菜の苗を作る仕事に就きたいと考えています。

この応援事業のおかげで、夢を実現することが出来そうです。ありがとうございました。

この度は支援をしていただき、本当にありがとうございました。

諸事情により大学を留年し、奨学金ももらえない状況が続いていましたが、この度の支援により何とか生活を維持することができました。

その当時は生活が苦しかったので、何よりも助けになりました。

重ねてお礼申し上げますとともに、このような支援を受けた経験を忘れず、いつか自分も人の助けとなれるようにこれからも努力していきたいと思えます。

コロナ禍で大学が始まり想像していた生活とはかけ離れた中で、アルバイトもなかなか決まらず大学生活がうまくスタートできずにいました。

周りの人は実家からオンライン授業を受けているが自分はそのような場所がなく、知らない土地でやむを得ず生活に慣れていくしかありませんでした。

その中、「未来に進もう！こどもの夢応援事業」の支援を頂いたことで生活に余裕が持て金銭面で多くの悩みを持つことはありませんでした。

大学生活や自身の将来について考え、挑戦してみる時間が多く持てました。

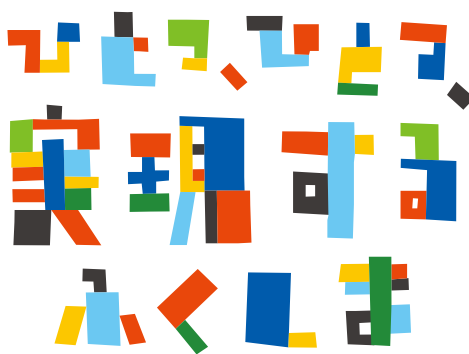
大学生活で色々ありましたが、卒業時に振り返った際に私の大学生活は多くの人の支えがあったのものだったと実感しています。ありがとうございました。

寄附をくださった皆様から福島の子どもたちへのメッセージ

国内外の寄附者の方々から、福島の子どもたちへ、たくさんのメッセージを寄せていただいています。その中から、一部をご紹介します。

- みなさんの将来が少しでもより良いものになるために、少しばかりですが、寄附させていただきます。 (福島県)
- どんな環境でも生きて暮らしていくことは“ちから”のいることです。そうして頑張っている自分をほめてくださいね。ほんとうに少しの手助けですが、何年経っても応援の気持ちは忘れません。 (山口県)
- 東日本大震災で被災された方々のことは決して忘れません。子どもたちが希望を持ってより良き未来を生きられるよう願っております。 (福岡県)
- 初めて寄附します。東日本大震災と原発事故から 10 年以上経過しますが、福島の子供たちの心配はまだまだ尽きないのではないかと考えています。些少ですが、少しでも役に立てていただければ幸いです。 (埼玉県)
- 皆さんの学び、成長、夢を持ち一歩ずつ進むこと一つ一つが福島の復興を後押しし、多くの人に希望を与えます。皆さんの未来がさらに花開くことを願っています。 (宮城県)
- 皆さんが将来の夢に向かって歩んでいる姿に勇気をいただいております。私ができることはほんのささやかなものですが、これからもずっと応援していきます。皆さんの将来の夢はきっと叶います。これからも夢に向かって歩み続けてください。 (東京都)
- 震災から 10 数年経ちましたが、皆さんのことを忘れたことは決してありません。これからも皆さんのことを見守り続けていきますので、健やかな成長とふるさとの福島の復興をお祈りします。 (岐阜県)
- 福島県のホームページを通じて、頑張っておられる皆様のことを知りました。皆で陰ながら応援しています。これからも体に気を付けて頑張ってください！ (広島県)
- 震災が起こったあの日から 13 年が経ちました。当時私は生まれたばかりで、震災のことは映像でしか見たことがありません。今は街も復興しつつありますが、皆さんの心の中にはあの日の記憶が残り続けていると思います。今この時も復興へと向かっている皆さんへ少ない金額ではありますが、少しでも心の支えとなればと思い、募金させていただきました。皆さんの笑顔がこれからも増え続けていくことを願い、私たちはこれからも応援し続けます。生徒一同 (大阪府)





令和6年9月発行

福島県 子ども未来局 子ども・青少年政策課

〒960-8670 福島市杉妻町2番16号

電話：024-521-7198

E-mail:kodomoseisaku@pref.fukushima.lg.jp

福島県庁ホームページ